

25. プロフェッショナリズム部会^{*1}

宮田 靖志^{*2}（部会長・愛知医科大学地域総合診療医学寄附講座）

本部会は、(1)プロフェッショナリズム教育方略の開発・紹介、(2)利益相反教育の啓発、(3)医師の行動規範の策定、の3つのテーマに基づいて活動している。

(1)プロフェッショナリズムは医療のコンテクストによって様々に定義され、また取り上げられる課題も変化する。

①近年、医師の働き方改革に代表される医師の健康に関する議論が高まっており、バーンアウトを回避するためのセルフケアの重要性に注目が集まっている。これを受け、マインドフルネス、レジリエンスに関する教育方略の紹介、卒前教育での実施状況調査を進めている。

②また、医学生は学部教育が進むにつれ、共感能力が低下することが共通認識となっている。これには様々な要因が考えられているが、1つは医療におけるアートの部分の教育が不足しているためと思われる。近年、医学教育には様々な学習項目が詰め込まれており、特に、高学年において医療におけるアートを伝えることは非常に難しくなっているが、ナラティブ・メディスンをはじめとした医療におけるアートを伝える教育方略の開発と紹介、また、卒前教育でのこれらの実施状況調査を進めている。

③プロフェッショナリズム教育方略は多くの医

学教育者が個々に工夫しながら様々にユニークな教育を実践している。これらを広く紹介することでプロフェッショナリズム教育がさらに普及していくことを狙って、部会報告として教育方略の連載を学会誌において継続している。

(2)医学教育における営利企業、特に、製薬企業との適切な関係についてこれまで継続議論してきたが、建設的な議論はまだまだ成熟していない。残念ながら大学教員がかかわる贈収賄事件も発生している。利益相反の研究結果に基づく啓発活動、継続的な調査研究をさらに強化していこうとしている。

(3)医のプロフェッショナリズムには、「医師の行動規範 (Standard)」を定め、その遵守を社会に対して約束することが含まれるが、わが国では実質的に機能する Standard が存在しなかった。そこでこの「医師の行動規範」の策定について検討するため、「日本版 Good Medical Practice 策定検討会議」を開催し、医療先進各国の Standard について検討し、日本における議論の場づくりを進めている。

副部会長：朝比奈真由美、部会員：福井次矢、羽鳥裕、森悦子、秋山美紀、掛江直子、井上千鹿子、高宮有介、向原圭、横尾英孝、小比賀美香子、原怜史、尾崎章彦、担当理事：野村英樹

^{*1} Professionalism Subcommittee

^{*2} Yasushi Miyata